

## 「肩車型社会論」のまやかし（社会保障の充実こそみんなの願い）

政府広報（内閣官房）や厚生労働省のホームページでは、1965年には一人のお年寄り（65歳以上）を約9人で支える「胴上げ型」、現在は支え手（20歳～64歳）が約3人の「騎馬戦型」、将来2050年には一人が一人を支える「肩車型」になるから税と社会保証の一体改革が必要と大宣伝しています。

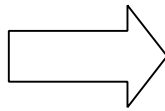
ここには、分母と分子の数字のとり方に意図的なまやかしがあります。

分子（支えられる人）＝65歳以上の高齢者だけでなく、全人口であるべき  
 分母（支える人）＝20歳～64歳だけでなく、労働力人口であるべき

1、現役世代は自分も含め、全世代を扶養しているのです。政府に求められるのは悲観的な将来見通しを振りまくことではなく、支える人口を増やす雇用政策に力を入れる責任があります。

政府の宣伝

- ・現在は、3人の現役で1人の高齢者を支える「騎馬戦型社会」
- ・50年後には、1人の現役で1人の高齢者を支える「肩車型社会」になる。



現役世代は自分も含め、全世代を扶養している、支えられる人口（分子）＝全人口のはず  
 1人の現役（生産年齢人口）が扶養する人口

2010年現在：1.57人

2030年：1.72人（1.10倍）

2055年：1.95人（1.24倍）

政府の説明との違い

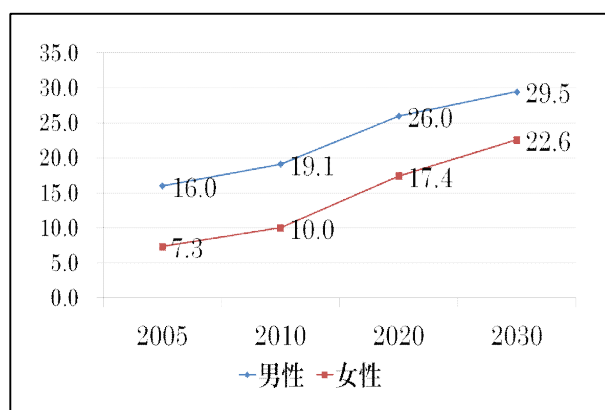
支えられる人口は、高齢化で増加するが少子化で減少する。

2、非正規労働者の急増、就業率の低下の改善（支え手の充実）こそ必要。その深刻な実態は

非正規雇用の急増		
1985年：655万人（16.4%）		
2000年：1,273万人（26%）		
<b>2011年：1,733万人（35.2%）</b>		
<b>うち女性 1,188万人（54.7%）</b>		
男性の就業率の低下		
	2001年	2011年
全体	71.7%	67.8%
25～34歳	91.1%	89.3%

非正規労働者の劣悪な雇用条件			
非正規労働者の年間収入の分布（2011年時点）			
<b>男性：非正規の58.1%は200万円以下</b>			
<b>女性：非正規の47.8%は100万円以下</b>			
*男性の非正規労働者の43.6%が「家計の主たる稼ぎ手」なのです（厚労省平成18年実態調査資料）			
パート労働者の公的年金加入率（2011年）			
	本人加入	国保3号	加入せず
配偶者有	26.6%	42.7%	2.6%
配偶者無	39.4%	—	21.6%

### 生涯未婚率



### 非正規就労は有配偶率も低くする

就業形態別男性の有配偶率			
	20～24歳	25～29歳	30～34歳
正 規	11%	33%	59%
非正規	5%	14%	28%

## 3、雇用環境の改善こそ必要、支え手を増やすという意味でも雇用環境の改善は急務

結婚意欲が衰えたわけではない (H21 調査)

	結婚したい (7年前)	うち結婚した
26～30歳	61.8%	45.8%
31～35歳	61.9%	35.8%
36歳以上	57.7%	14.5%

課題

- ・長時間労働をなくし、自由な生活時間を
- ・結婚できる賃金を

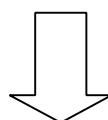
### 社会保障は経済成長と雇用の創出に寄与する

(『厚生労働白書』)

・保育の充実等で25～44歳の女性の就業率(現在66%)が73%に上昇すると就業人口は約100万人増加する。

・医療・福祉の分野では直近10年間で238万人の雇用を創出。子供・子育て支援策が進むと2020年までにさらに16万人の雇用が生まれる。

・チャンレンジドを納税者に！



### 「非正規雇用の正規化こそ再生の鍵

正規雇用を増やすことは、国民の生活の安定に大きく寄与するのはもちろんのこと、納税者をふやし、国の税収増加につながる。さらに、現在、市町村国民健康保険への加入を余儀なくされている若年非正規労働者を厚生年金に加入させることにより、市町村国保の財政の改善にもつながります。

雇用・社会保障で経済界が応分の負担を引き受けることが日本経済再生のカギ：提言

#### ・非正規雇用の正規化

正規化に踏み切った企業には一定期間、事業主・被用者双方の雇用保険を減免

・高齢者雇用継続制度の前倒し実施 (3党合意で平成37年まで適用延期)